

笹の葉さらさら…七夕飾りがそよぐ ～市役所玄関に七夕飾を飾りつけ～

7月2日（金）、市役所玄関で清里保育園の園児が、笹に七夕の飾り付けをしました。

笹竹は毎年、荒尾市建設業協会のご好意で用意されています。園児たちはこの大きな笹竹に、手作りした飾りや願い事を書いた短冊を丁寧に結びつけ、たくさんの飾りで華やかに飾り付けました。また、飾り付けの後には、元気な「七夕の歌」が玄関いっぱい響きました。市役所の玄関は夏の風物詩に飾られ、涼しい空気に彩られました。

▶市建設業協会の皆さんと一緒に、笹の前でポーズ！願い事がかなうといいですね



蒲島県知事、中学生に「夢」を語る ～海陽中学校で県知事の出前ゼミ～

7月12日（月）、荒尾海陽中学校で蒲島郁夫熊本県知事が、出前ゼミを行いました。

「夢限りなく」という演題で、生い立ちから現職に至るまでの体験の中で、夢を実現させるために努力を惜しまなかったことや、困難が立ちほだかったときに夢という原点に立ち戻り努力してきたことなどを語りました。講演の中で蒲島知事は、①人生には可能性が無限大にあること、②逆境の中にこそ夢があること、③夢の実現のために勇気ある一歩を踏

み出すこと、④一歩踏み出したら120%の努力をすること、という4つのメッセージを贈り、生徒を激励しました。参加した生徒は、蒲島知事の講話に真剣に聞き入っていました。

質疑応答の時間には、活発に手が挙がり、「(前日の参議院議員)選挙についてどう思うか」「消費税は上がるのか」「失敗の中で学んだことは何か」「毎日何時間くらい勉強したのか」などの質問が出され、蒲島知事は一人ひとりに笑顔で、丁寧に答えていました。



▲質疑応答の時間の様子。蒲島知事は「勇気を出して手を挙げたことで、すばらしい先生に師事することができた」という自らの大学時代のエピソードを披露し、「こそぞというときに手を挙げましょう」と生徒にアドバイス。たくさんの生徒が次々と手を上挙げ、蒲島知事と直接言葉を交わした。

PICK UP!

まちの
ちから

荒尾から耕作放棄地をなくしたい！

～金山地区で耕作放棄地解消の取り組み～



▲ 葛やセイタカアワダチソウなどが、大人の身長くらい茂っていた耕作放棄地を、少しずつ刈っていく作業は一仕事。職員が耕作放棄地対策に乗り出す取り組みは、県内でも初めてだそうだ。



▲ 作業の終わった畑。土手の草もきれいに刈り取られた。場所柄、車などが入りにくいところにあるため、秋にまずは手間のかかりにくいジャガイモを植えようか、と作業をした職員の声も弾んだ。

7月18日（日）、金山地区で市農林水産課職員が、耕作放棄地の解消作業を行いました。

昨年12月に農地法改正が施行され、農業委員会活動の中に耕作放棄地解消に向けた取り組みが盛り込まれました。荒尾市でも農業委員1人1反運動を掲げて精力的に取り組んでいて、その結果、平成21年度は2・9ヘクタールを解消することができました。

しかし、耕作放棄地は荒尾市全体で285ヘクタール、荒尾市の全体農地面積では14・77%にもなり、さらに増加傾向にあります。

以前から、事務局でも耕作放棄地の解消ができないかと考えていま

すが、今回、職員自ら解消に向けて取り組むことにしました。

当日は、農林水産課と産業振興課職員13人が、12アールの農地で草刈機を用いて作業に汗を流しました。つるなどが草刈機に絡みついて作業もはかどりませんでした。が、それでも2時間後には、ほぼ完了しました。

刈り取った草は処分した後、トラクターで耕して抜根作業をしたのち、作物の植え付けを行います。金山地区でおいしいと評判のジャガイモ、さつまいもなどの根菜類やたまねぎ、大豆、小豆などを植える予定だということです。

社会を見つめる鋭いまなざし

～社会を明るくする運動 弁論大会～

7月17日（土）、文化センターで、社会を明るくする運動の一環として第60回弁論大会が開催され、市内の小・中学校と高等学校の代表計16人が発表しました。

それぞれの発表者が日常生活の中で体験したことを通じて社会のあり方に対し、高い問題意識を持っていて、疑問や体験だけで終わらせるのではなく、これからの生き方や社会との向き合い方について、自らの言葉で社会を明るくしていく決意を語りました。身の回りの気付きから世界情勢まで、社会に向けられたさまざまな視点に対する真剣な発表に、参加者も熱心に耳を傾けていました。

上|| 有明高校代表 木下愛利さんの発表の様子。タイトルは「世界の中の私たち」 下|| 壇上の人の発表をしっかりと聞く各校代表の発表者の皆さん。

